がんばろう！東北

平成２６年８月２１日
北上川下流河川事務所
石巻市

未来に向かって旧北上川かわまちづくり

東日本大震災で甚大な被害を受けた旧北上川河口部とその周辺市街地の復興にあたっては、まちづくりと連携して、安全・安心で、人々がにぎわい、憩いの場となる、水辺空間の整備を目指した「かわまちづくり」を進めています。

北上川下流河川事務所における、旧北上川河口部の復旧・復興に向けた取組を「未来に向かって旧北上川かわまちづくり」として取りまとめました。

北上川下流河川事務所記者発表についてはホームページでご覧になれます。
ホームページアドレス【http://www.thr.mlit.go.jp/karyuu/】
＜発表記者会：石巻記者クラブ、古川記者クラブ＞

【問い合わせ先】
国土交通省　東北地方整備局 北上川下流河川事務所
石巻市蛇田字新下沼80　TEL　0225-95-0194（代表）
副　所　長　佐藤（さとう）　正明（まさあき）　（内線２０５）
調査第一課長　山田（やまだ）　拓也（たくや）　（内線３５１）
石巻市　建設部　石巻市穀町14番1　TEL 0225-95-1111（代表）
参事兼河川港湾室長　川口（かわぐち）　高雄（たかお）　（内線５６０３）

未来に向かって
旧北上川かわまちづくり

住吉小学校わーくしょっぷ

平成26年8月

国土交通省　北上川下流河川事務所

石巻市

未来に向かって旧北上川かわまちづくり

目　　次

１．東日本大震災からの復旧にむけて

川湊として発展した石巻 …… １
地域の特性 …… ２
改修工事による河道の変遷 …… ３
震災による甚大な被害 …… ４
石巻市街地の復興まちづくり …… ５
新たな堤防計画の基本となる断面 …… ６
堤防計画に関する合意形成 …… ７
浸水対策アンケート …… ８
石巻市との連携 …… ９
復旧・復興に向けた連携 …… １１

２．旧北上川かわまちづくりの取組

かわまちづくりの取組 …… １２
旧北上川河口かわまちづくり検討会 …… １３
学識者ワーキング …… １４
住吉小学校わーくしょっぷ …… １５
地域の意見を伺うパブリックコメント …… １６
地域の方々と水辺空間を考える地域ワークショップ …… １７
かわまちづくり担当職員ワーキング …… １８
かわまちづくり市民報告会 …… １９
市民報告会アンケート結果（速報） …… ２０

３．かわまちづくりの基本方針及びデザイン案

かわまちづくりの基本方針 …… ２１
中央地区のデザイン検討案 …… ２３
大島神社（住吉神社）前のデザイン検討案 …… ２５
住吉小学校前のデザイン検討案 …… ２７
湊地区のデザイン検討案 …… ２９
藤巻・井内地区のデザイン検討案 …… ３１

４．今後のかわまちづくりの進め方

旧北上川かわまちづくり情報館 …… ３３
市民部会によるかわまちづくり …… ３４

５．参考資料

旧北上川かわまちづくりの参考資料 …… ３５

川湊として発展した石巻

- 北上川の改修工事により、舟運は飛躍的に発展し、新田が開発されて米の生産量が増え、石巻の町は河口の湊として大いに発展。
- 石巻湊から江戸へ輸送した「仙台米」は、江戸で消費される米の量の三分の一に及んだといわれる。
- 川湊としての利便性が高い一方、治水安全度の向上のための堤防整備については、進んでいなかった。

『仙台石巻湊眺望之全図』（抜粋） 小野寺鳳谷、嘉永5（1852）年

河口港であった石巻港（昭和30年頃）

震災前の水辺（無堤）（平成22年）

地域の特性

- 住吉公園には延喜式内社飯石大島神社（住吉神社）があり、公園前にある島を御島と呼ぶ。島北側の松の下にある「巻石」は、川の水がこの石にあたって渦を巻くことから石巻の地名の由来と言われている。
- 千石船でにぎわった江戸時代には、出航に都合の良い風向きや潮の流れを見たところで「日和」を見る場所であるところから「日和山」の地名が起こったと考えられている。
- 日和山に鎮座する鹿島御児神社は、延喜式神名帳所載の式内社で国史現在社として最も由緒深い神社。
- 鎌倉時代に源頼朝の家人であった葛西清重が奥州合戦の恩賞として牡鹿郡を始めとする近隣の数カ所を受領し、日和山に石巻城を築いたとされる。

延喜式内社飯石大島神社（住吉神社）

この石が「巻石」と呼ばれ「石巻」という地名の源になったと言われている

日和山（石巻城址碑）

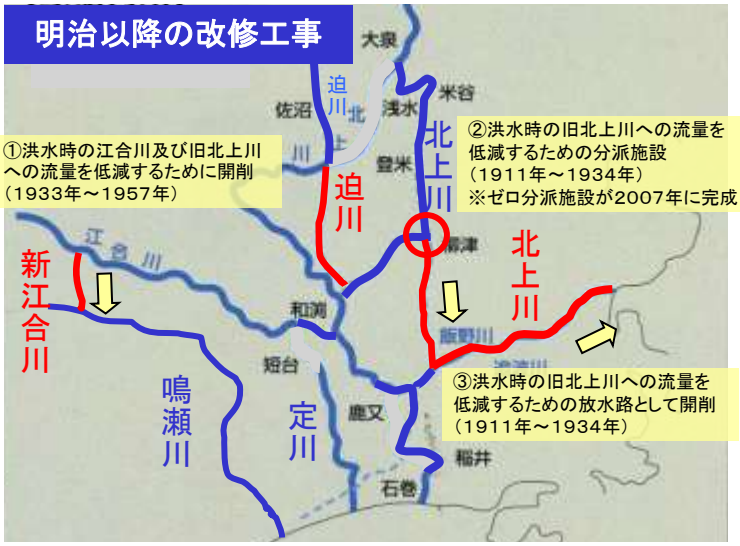
日和山に鎮座する鹿島御児神社

改修工事による河道の変遷

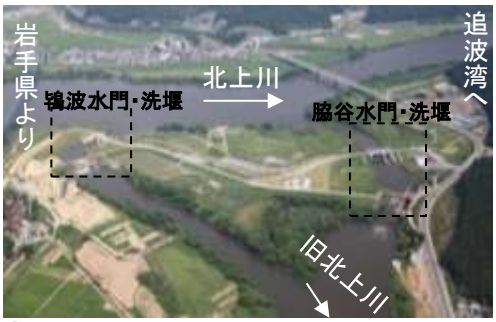
- 慶長10年(1605)より急流緩和のため迫川と分離し、元和2年(1616)より北上川、江合川、迫川を合流させる改修に着手。
- 明治43年(1910)の大洪水を受け、明治政府は翌年から洪水を追波湾に流す北上川（放水路）の開削工事に着手し、大正2年(1913)の洪水後には支川江合川の流量の一部を鳴瀬川に分派させるための新江合川の開削工事に着手。
- 平成19年(2007)平常時・洪水時に一定のバランスをもって流水を2つの北上川に分派させる機能を持った施設（鴇波水門、脇谷水門）が完成。

江戸時代の改修工事

明治以降の改修工事



①現在の江合川から新江合川へ分派する様子



②旧北上川への洪水時の流量を低減する分流施設〔2007年完成〕

③北上川の新川開削工事〔北上川第1期改修工事〕

震災による甚大な被害

➢東北地方太平洋沖地震及び津波により、旧北上川が貫流する石巻市街地は広範囲が浸水し、甚大な被害が発生。

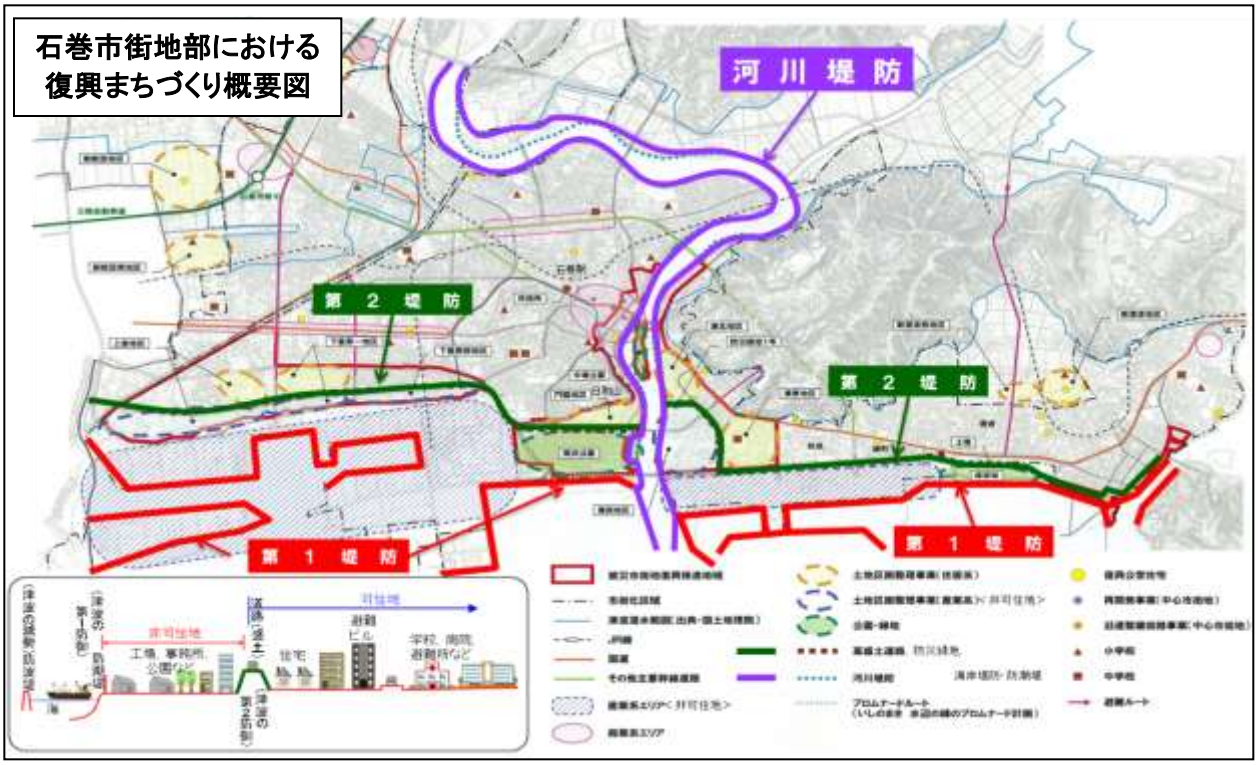
津波が旧北上川を遡る様子（3月11日17時撮影）
写真：石巻市

石巻市街地の復興まちづくり

➢石巻市震災復興基本計画(H23.12)により、津波や高潮に対し、防潮堤や河川堤防等の多重の整備により市街地等の安全確保を図ることを位置付け。

➢これに基づき、洪水、高潮、津波※1に対して必要とされる堤防高のうち最も高い堤防高を区間ごとに設定し、人命や資産を守る。

石巻市街地部における復興まちづくり概要図

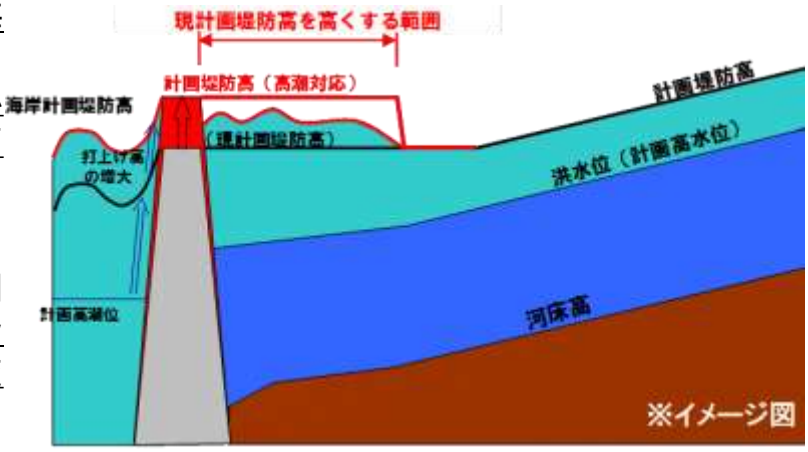


旧北上川の河口部は「高潮」で堤防の高さを決定

〇河口部の河川堤防高は、海岸堤防高と整合を図りながら、洪水、高潮、津波※1に対して必要とされる堤防高のうち最も高い堤防高を区間ごとに設定。

※1　施設計画上の津波

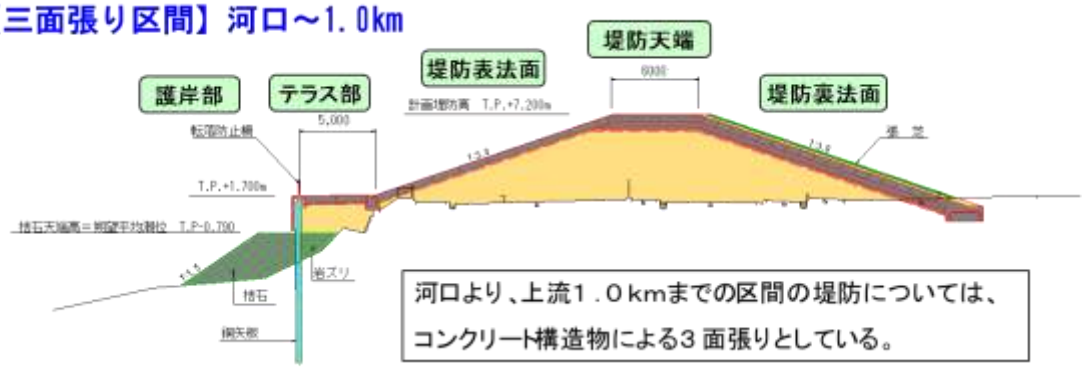
〇現行の海岸堤防計画(高潮計画)と同じ外力を対象とし、今次の地震に伴う海底地形の変化を反映して計算。



新たな堤防計画の基本となる断面

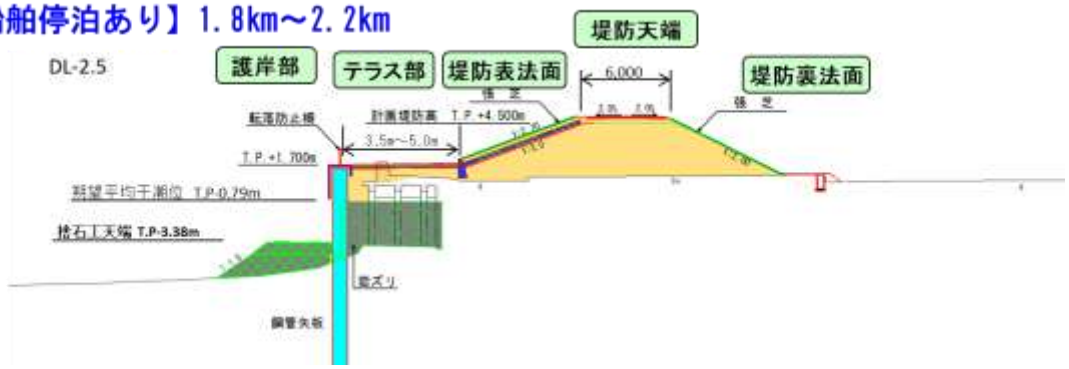
➢新たな河川堤防の整備を進めるにあたり、以下を堤防・護岸の基本形状とし、川づくりの基本的な方向性及び景観への配慮方法について検討。

【三面張り区間】河口～1.0km

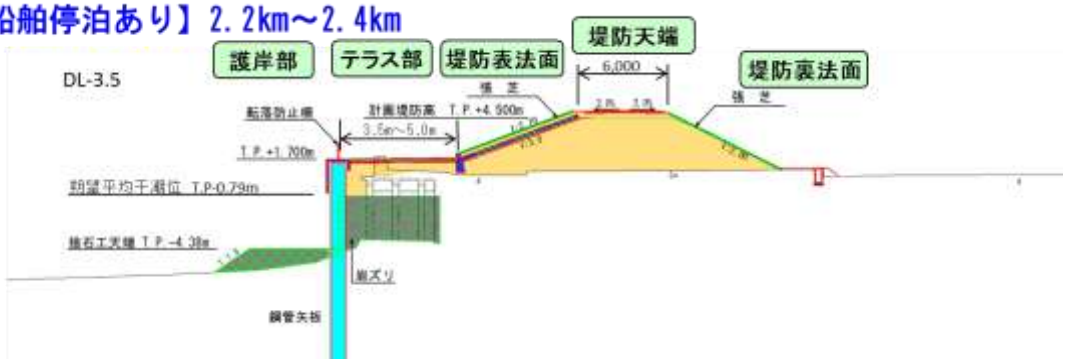


河口より、上流1.0kmまでの区間の堤防については、コンクリート構造物による3面張りとしている。

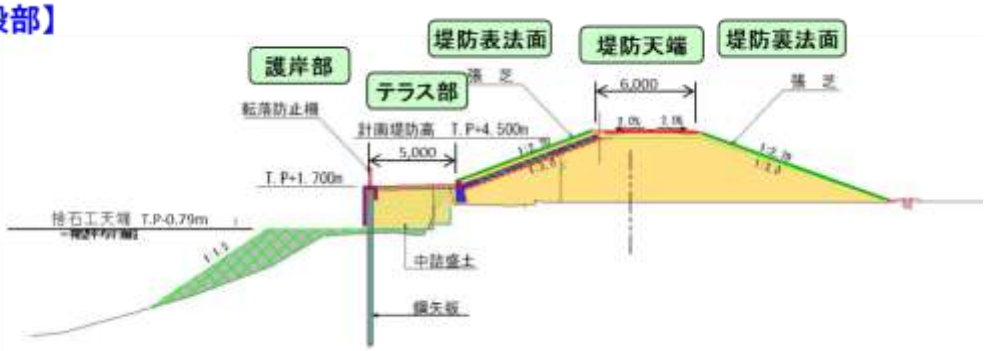
【船舶停泊あり】1.8km～2.2km



【船舶停泊あり】2.2km～2.4km



【一般部】



堤防計画に関する合意形成

➢約140回以上の説明会を開催し、延べ1，800名以上の方に説明。

堤防の考え方、堤防計画の説明

（平成23年11月～12月）

〇堤防設計の基本的な考え方等を説明
（石巻市で約1,900名）

〇浸水対策についてアンケート調査
（回収総数約1,100枚）

〇堤防設計のための測量着手の報告
（旧北上川沿川で約1,750名）

堤防計画（案）の説明

（平成24年1月～平成24年11月　約140回延べ1,800名以上）

計画中の堤防設計について、各町内会（各地区）単位で説明し、了解をいただく。

〇地区別の高さと敷幅　〇堤防の位置、横断形状
〇側道を含めた堤防計画

堤防高の決定(河川整備計画の変更)

（平成24年11月）

〇学識者の意見を聞く場（学識者懇談会、部会）の開催
（平成23年11月～平成24年10月に計4回）

〇住民の意見聴取（パブリックコメント）の実施
（平成24月9月15日～10月14日）

〇地域の意見を聞く場（公聴会）の開催（平成24年10月に計3回）

浸水対策アンケート

➢河口部周辺の本格的な復興に向けた堤防整備等を進めるにあたり、地域住民の意見を把握するため、地域住民へのアンケートを実施。
（実施時期：平成23年11月、アンケート回収総数：1,179枚）

結果概要

【質問3】以前より浸水しやすくなったという実感はあるか？

➢7割以上が浸水しやすくなったと実感

【質問4】優先して実施すべき河川の津波防災対策はどれか？

➢**6割以上が河川堤防による対策が必要**と回答

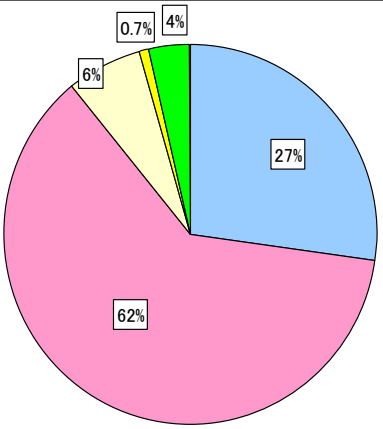
【質問5】優先して実施すべき浸水対策はどれか？

➢**5割以上が河川堤防の整備**と回答

質問6

堤防を整備する場合、
その高さに比例し広い敷地が必要となります。

津波等からの「安全・安心」と「土地利用・市街地のまちづくり」との
バランスをどう考えますか？
（複数回答）



- 広い土地を必要としても、3月11日の大津波も防ぐ万全な堤防を造るべき
- 洪水・高潮や一定レベルの津波を防ぐ堤防を造り、それを超える大津波への備えは、避難対策（避難ビル等）と組み合わせる
- 「安全」も大事だが、「まちづくり」を優先に考え、堤防は極力低くすべき
- いざというときには避難すれば良く、堤防等の整備は一切必要ない
- その他、具体的に

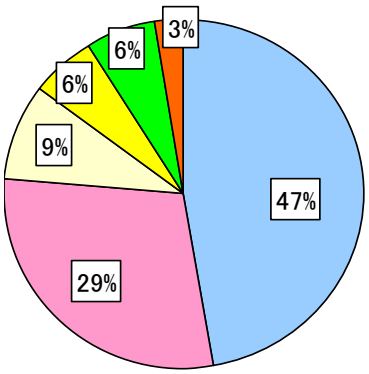
➢**約6割が一定レベルの堤防を造ったうえでソフト対策と組み合わせた対策を行うべき**と回答

➢一方、**27%が広い土地を必要としても今次津波を防ぐような堤防が必要**と回答

➢まちづくりを優先して、堤防は極力低くすべきという回答は6%

質問7

河川を整備する場合、
最も配慮すべき点は
どれですか？



- 浸水被害の無い安全・安心なまちづくり
- 災害時の避難路
- 散歩・ジョギングなど市民に親しまれるような工夫
- 自然環境の保全
- 市街地の活性化（観光・まちの賑わい）を重視する
- その他　具体的に

➢「浸水被害の無い安全安心なまちづくり（47%）」・「災害時の避難経路（29%）」など、**7割以上が安全安心を重視**

石巻市との連携

いしのまき水辺の緑のプロムナード計画の概要（H25年3月）

計画策定の背景・目的

＜石巻市＞

- 石巻市は、川湊として発展してきた街であり、大震災からの復興にあたっても、水辺と親しみながら人々が集い、交流し、まちが賑わいを取り戻す街づくりが不可欠。
- まちの中心部を囲むルートと拠点を配置、河川堤防を活かした整備等で、まちづくりを行う計画。

- 悠々とした流れを感じる旧北上川
- 近代日本開拓の息吹を感じる北北上運河（貞山運河）
- 潮風を感じ往来する船舶を眺められる雲雀野海岸
- 水運で栄えた石巻の顔、各所に点在する観光資源

これらを一体的に活用し、河川や水辺を活かしたまちづくりを目指す。

①市民や観光客が気軽に水辺を楽しみながら、石巻湊の歴史・文化等を知る。
②将来を担う子供たちに旧北上川と石巻市の発展の関わりを学び知ってもらう。
③人々の憩いと健康の増進。
④中心市街地に賑わいを取り戻し、観光振興などを期待。

●いしのまき水辺の緑のプロムナード計画　全体図（H25年3月）

●計画につきましては、石巻市HP＞市民の方へ＞くらしと仕事＞都市開発・まちづくり＞（川まちづくり）いしのまき水辺の緑のプロムナード計画をご覧ください。
http://www.city.ishinomaki.lg.jp/cont/10507000/8290/20130605165626.html

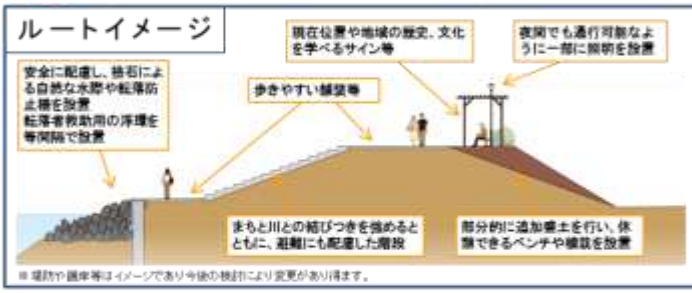
石巻市との連携

いしのまき水辺の緑のプロムナード計画 （抜粋）
― 河川堤防を活かしたまちづくりの整備イメージ ―

※以下の内容はプロムナード計画の整備イメージの抜粋です。
関連事業を含め、今後の検討による変更もあります。

ルート ② いにしえの石巻湊と賑わいを訪ねる「旧北上川と石巻湊ルート」

ルートイメージ



※堤防や護岸等はイメージであり今後の検討により変更があり得ます。

ウォーキングのイメージ

河川清掃のイメージ

住吉小学校前の環境学習のイメージ

拠点 B 雄大な旧北上川を眺めながら石巻の食を堪能する「食彩・感動いしのまき」

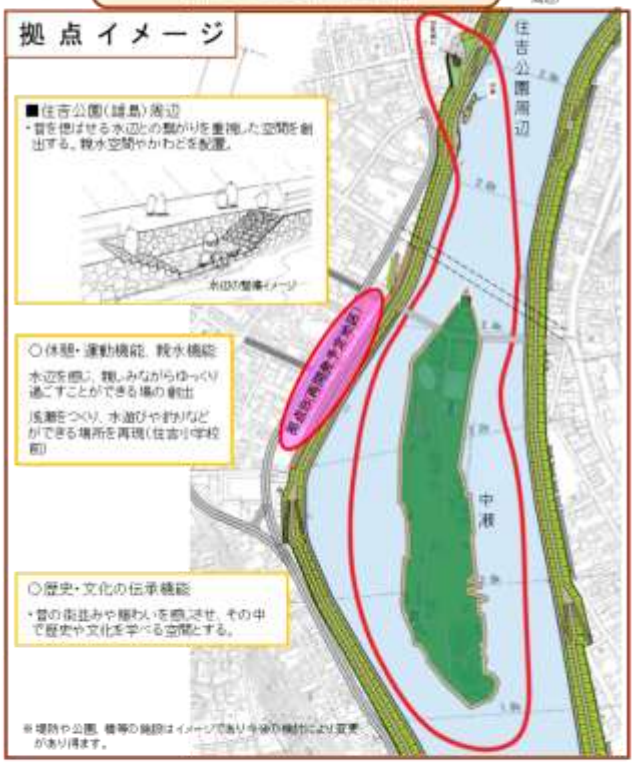
拠点イメージ

堤防と背後地再開発の接続イメージ

拠点 C 川と共に暮らして「かわみなと・石巻」の歴史と文化の伝承「『石巻の歴史』と『水と共に生きた文化』を伝えるシンボル空間」

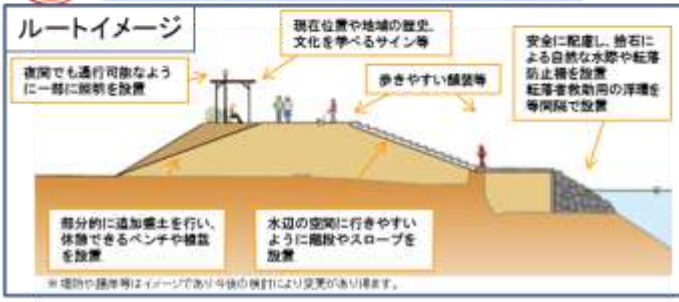
○：拠点の範囲（中瀬・住吉公園周辺）

拠点イメージ



ルート ③ 新たに産業と居住集積を考慮した拠点的ルート「居住と産業が隣接した憩いのルート」

ルートイメージ



※堤防や護岸等はイメージであり今後の検討により変更があり得ます。

ゆったり水辺を眺められるベンチのイメージ

ウォーキングのイメージ

復旧・復興に向けた連携

➢河口部の復旧・復興に向けて、関係機関等と情報共有及び連携して取り組みを実施。

関係住民の方々への説明

●自治会の自治会長説明及び地元説明会
延べ140回以上、1800名以上
※堤防高公表後（平成24年1月 ～ 平成24年12月まで）

行政機関（国、県、市）の情報共有・連携強化

●石巻・東松島地区復興防災基盤連絡調整会議
（H23.11.8～）

地元経済界との連携

●石巻商工会議所との情報交換（H23.9.6～）
●宮城県東部土木及び石巻市を加えた4機関による情報交換（H24.3.6～）

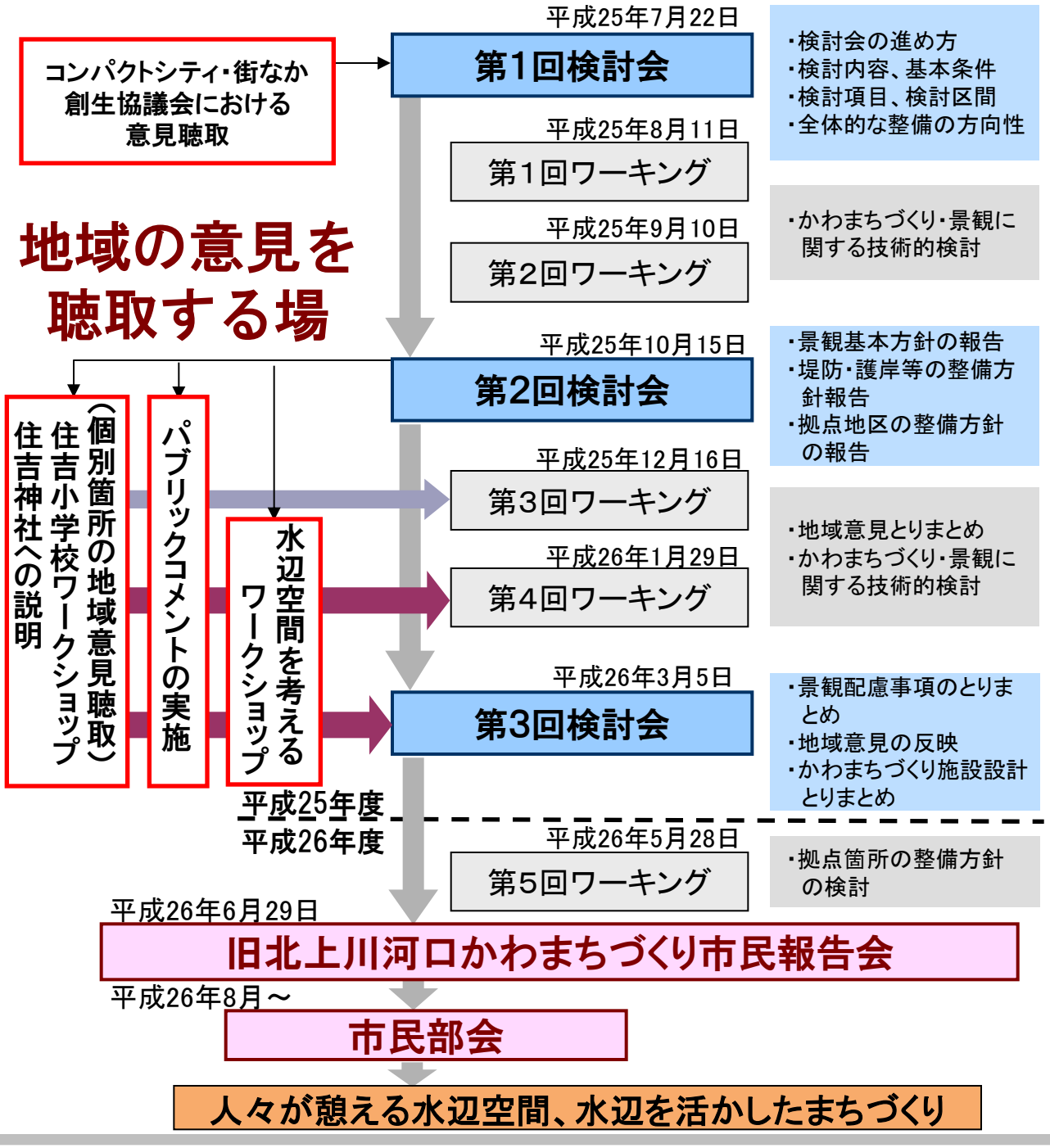
官・民・学の連携

●コンパクトシティ いしのまき街なか創生協議会

かわまちづくりの取組

➢旧北上川河口部の復興にあたっては、まちづくりと連携し、安全・安心で、人々がにぎわい、憩いの場となる水辺空間の整備を目指した「かわまちづくり」を推進。

➢具体的な水辺デザインに向けて、かわまちづくり検討会、学識者ワーキングを設置し、地域の方々の意見を伺いつつ、検討を実施。



旧北上川河口かわまちづくり検討会

➢「旧北上川河口かわまちづくり検討会」は、景観デザインや治水対策を専門とする学識者、地域の有識者、関係行政機関により構成。

➢景観の基本方針や堤防・護岸等のデザイン、拠点地区の整備の方向性などを検討。

第１回検討会（平成25年7月22日）

第２回検討会（平成25年10月15日）

第３回検討会（平成26年3月5日）

＜委員名簿＞

浅野	亨	石巻商工会議所　会頭
亀山	紘	石巻市長
佐々木	葉	早稲田大学　創造理工学部　社会環境工学科　教授
島谷	幸宏	九州大学大学院　工学研究院　教授（座長）
田中	仁	東北大学大学院　工学研究科　教授
平野	勝也	東北大学　災害科学国際研究所　准教授
邊見	清二	石巻千石船の会　会長

50音順、敬称略

宮城県　東部土木事務所長
宮城県　石巻港湾事務所長
東北地方整備局　河川部長
東北地方整備局　北上川下流河川事務所長

学識者ワーキング

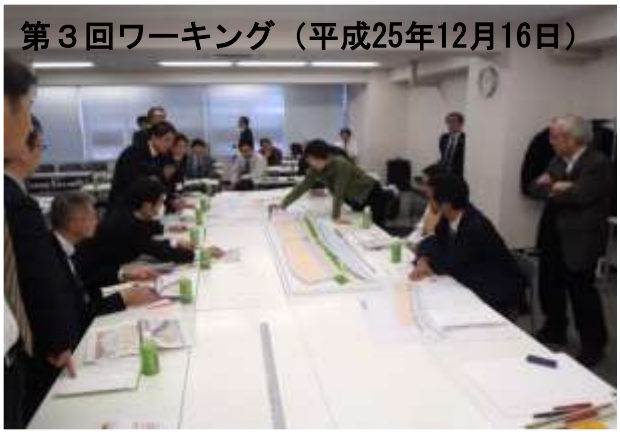
➢「旧北上川河口かわまちづくり検討会」の下に、学識者及び関係行政機関等からなるワーキングチームを設置。

➢水辺の模型やイメージパースを活用し、地域意見を踏まえつつ、景観、利活用を考慮して水辺整備の案を検討。

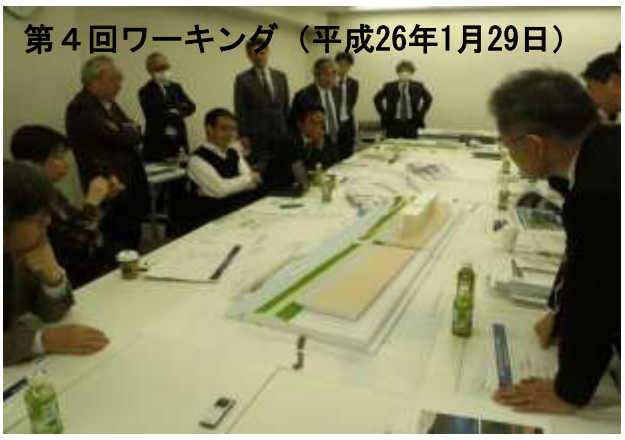
第１回ワーキング（平成25年8月11日）

第２回ワーキング（平成25年9月10日）

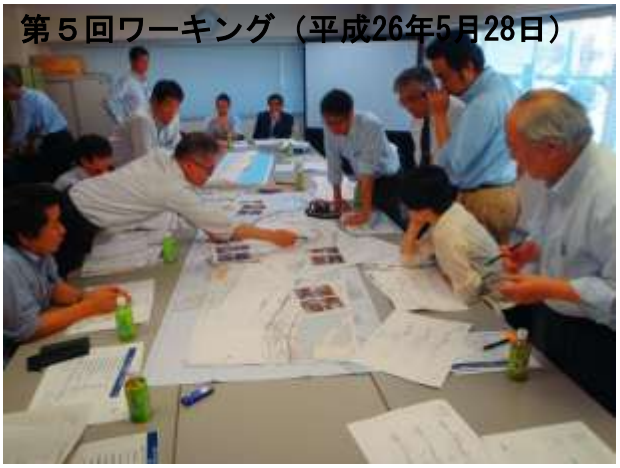
第３回ワーキング（平成25年12月16日）



第４回ワーキング（平成26年1月29日）



第５回ワーキング（平成26年5月28日）



第５回ワーキング（平成26年5月28日）

住吉小学校わーくしょっぷ

➢ 地域の子供達の声をかわまちづくりに反映させるため、わーくしょっぷを実施。

●実施概要
日時：平成25年11月15日（金） 5～6時間目
場所：石巻市立住吉小学校　体育館
対象：4年生～6年生　79名

●グループワークテーマ
・堤防でやってみたいこと、欲しいもの

全員集合　記念写真

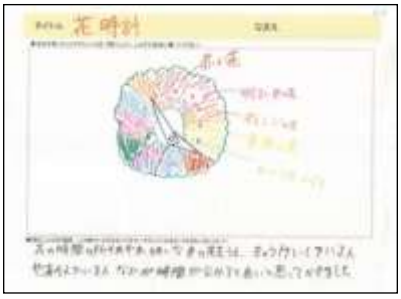
6～8名ごとの班に分かれ、グループワークを行い、子供達目線のアイデアを平面図に貼り付けました。
また、各自様式に「堤防でやってみたいこと、欲しいもの」の絵を描き、最後に発表会を行いました。

グループワークの状況

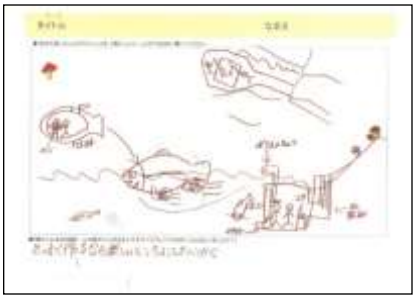
みんなで水辺の意見だし

アイデア満載のみんなの意見

発表会の状況



「花時計」6年生作成例


「せっかく作るなら楽しいところにしたい」
5年生作成例

子供たちのアイデア（一部）

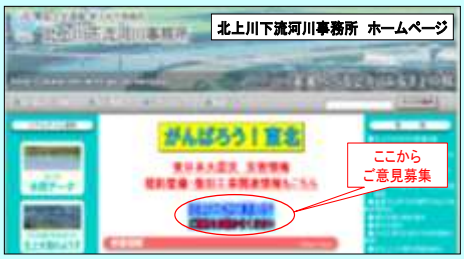
箇　所	堤防法面	天　　端	水　　際
やってみたいこと	○おにごっこ ○段ボールすべり ○花を植える ○川開き花火を見る	○ランニング ○犬の散歩 ○サイクリング ○川開き花火を見る	○魚釣り、カニとり ○水遊び ○カヌー遊び ○川の中をのぞく
欲しいもの	○トイレ ○花壇 ○ベンチ ○遊具（萬画館にあったような）	○街灯 ○川開きで花火を見る席 ○時計 ○ベンチ	○噴水 ○砂場 ○水に触れられる所 ○釣り場

地域の意見を伺うパブリックコメント

➢ 地域の方々のご意見をかわまちづくりに反映させるため、パブリックコメントを実施。

●実施概要
ご意見募集期間：平成25年11月21日（木）～12月20日（金）
ご意見募集方法：
①ホームページから電子メール、FAXにて
②閲覧場所から投函（北上川下流河川事務所閲覧室、石巻市役所市民サロンの2箇所）
ご意見数：18件

●ご意見募集状況（現在はありません）



北上川下流河川事務所のホームページ

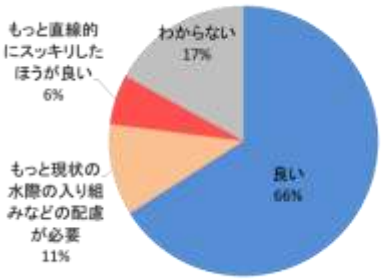
閲覧状況（石巻市役所）

＜質問と回答（一部）＞

Q1.
かわまちづくりの基本方針、設計・デザインの方針の案を記載していますが、どのように考えますか？

Q3.
堤防の法線（平面線形）を、日和山等からの眺望や、旧北上川の昔の地形等を尊重するものとしていますが、どのように考えますか？

Q4.
川前の護岸法線（平面線形）を、直線的ではなく水際の変化を持つようにしていますが、どのように考えますか？



Q5.
川側のテラス前面に捨石護岸（場所によって石積み護岸）を設けるものとしておりますが、どのように考えますか？

Q. 旧北上川河口部の水辺整備に関するご意見を自由に、ご記入ください。
〇水辺を散歩できるようになることは良いと思いますし、大いに利用したい。
〇震災前の川岸のイメージや形を生かして、洪水や津波に耐えれるように強く作って欲しい。
〇他の川のデザインをもってきた表面上の化粧は、後になって汚れたり補修にお金がかかったりすると思うので、そうならないような水辺として欲しい。
〇今の水辺は、その当時使える材料で作られ、年月によってなじんできたものと思います。デザインにこだわるよりも年月とともになじんでいく仕組みも必要だと思います。
〇川・海→津波→怖い　というイメージだけでなく、子供達が川・海で遊び水辺で暮らせて楽しい、良かったと思えるように整備を進めてください。

地域の方々と水辺空間を考える地域ワークショップ

➢ 地域の方々のご意見をかわまちづくりに反映させるため、地域ワークショップを2回実施。

●実施概要

第1回
- 日時：平成25年12月22日（日） 13時～17時
- 会場：石巻市役所　5階　市民活動ルーム
- 参加者数：27名
- アドバイザー：九州大学大学院　工学研究院　教授　島谷幸宏
  東北大学　災害科学国際研究所　准教授　平野勝也

第2回
- 日時：平成26年　1月18日（土） 13時～17時
- 会場：みなと荘　大広間
- 参加者数：21名
- アドバイザー：東北大学　災害科学国際研究所　准教授　平野勝也

第1回開催状況

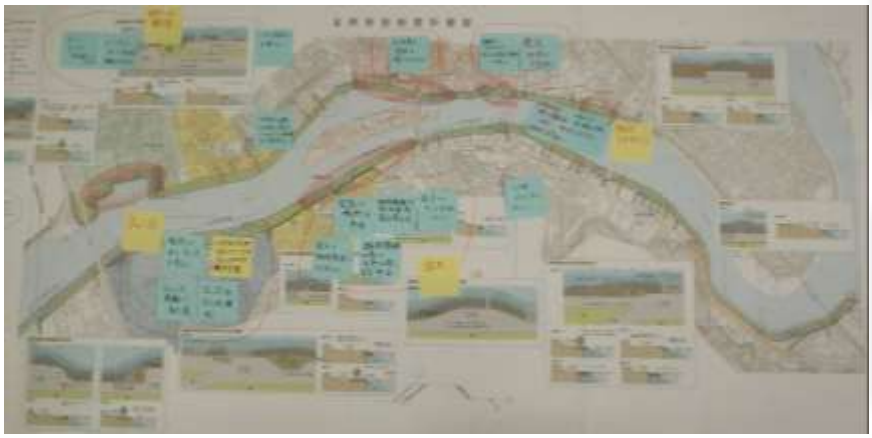
第2回開催状況

●グループワークテーマ
（1）旧北上川の良いところ・悪いところ（改善すべきところ）
（2）旧北上川河口の使い方・したい事、欲しいもの、
　　子供達に残したいもの、良い景色など
（3）かわまち検討案への意見、改善点

5～7名ごとの班に分かれ、3つのテーマについてグループワークを行いました。活発に意見を出し合い、意見を平面図などに貼り付けました。その後、各班の代表者が発表を行いました。

●テーマ3　いただいたご意見（一部）
- ○水位を周知する仕組みが欲しい
- ○自然・景観への配慮として、住吉神社の樹木は移植して欲しい
- ○ベンチは擬木ではなく、本物で
- ○転落者への対応、カヌー利用者への配慮として低水階段の増設が必要
- ○全体的に並木を増やして欲しい
- ○並木の維持管理は町内会など、住民側も含めて考える
- ○カヌー発着場として低水部へのスロープ設置
- ○雄島の嵩上げ（松が枯れているので嵩上げ可）
- ○巻石は手をかけない。干満による希少価値を逆手に取って、賑わい創出

●グループワークの成果


大きな平面図にご意見を貼り付け

グループワークの状況

各班発表の状況

かわまちづくり担当職員ワーキング

➢旧北上川河口部のかわまちづくりを担当する職員が集い、賑わいある新たな水辺の整備について、意見や知恵を出し合う。

➢ 九州大学島谷教授の指導のもと職員が模型作成に取り組み、試行錯誤しつつ、新しい水辺整備のアイデアを考える。

①ワーキングテーマ:
堤防を活かしたまちづくり　～10～20年後のこどもたちのために～
平成25年8月29日（木）13:30～16:30（北上川下流河川事務所）

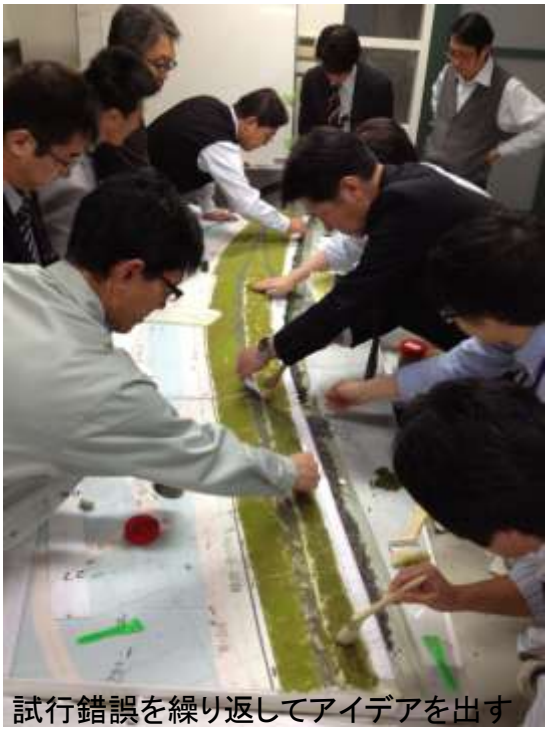
職員でかわまちづくりについて意見交換

意見発表

②水辺の模型作成ワーキング
平成26年2月26日（九州大学）

九州大学島谷教授の指導のもと、職員が水辺の模型製作を通じて、新しい水辺整備のアイデアを出す。

模型を用いて水辺整備案を検討


試行錯誤を繰り返してアイデアを出す

かわまちづくり市民報告会

➢旧北上川河口の堤防・護岸整備にあたり、復興まちづくりと連携した水辺空間のデザインについて、旧北上川河口かわまちづくり検討会で約１年間にわたり検討。

➢検討した中間成果を報告する場として市民報告会を開催し、地域の方々約170名に参加頂き、意見交換を実施。

『旧北上川河口かわまちづくり』
市民報告会

◆開催日時
平成２６年６月２９日（日）
１３：３０～１６：３０

◆開催場所
石巻グランドホテル２階鳳凰の間

◆一般参加者
約１７０名

ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ	島谷幸宏	九州大学大学院　教授
ﾊﾟﾈﾘｽﾄ	佐々木葉	早稲田大学　教授
	田中　仁	東北大学大学院　教授
	平野勝也	東北大学　准教授
	浅野　亨	石巻商工会議所　会頭
	邊見清二	石巻千石船の会　会長
	亀山　紘	石巻市長
	東出成記	北上川下流河川事務所　所長
ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ	菅原敬二	宮城県　東部土木事務所　所長
	梅本和彦	宮城県　石巻港湾事務所　所長

会場から寄せられたご意見（一部抜粋）

○堤防を観覧の場として利用できるのは良いが、全部が芝生でなくても良いのでは。コンクリートの段でも良いのでは。
○矢板が、河岸から５ｍの位置が打設する予定が10m位に工事された区間があり、丁寧な説明を望む。流量・流速など影響はどうか。
○船舶の係留やマリーナ等は考えているか。
○水制工を河口部全体に配置することで、安全性を高めることが考えられないか。
○今回の計画が実現できれば、石巻の発展の希望が持てる。
○北上川を「新北上川」、旧北上川を「北上川」に名称を変更できないか。
○河口部にある遺構や文化財になり得るものを保存できないか。
○街路灯やトイレを設置できないか。

市民報告会の実施状況

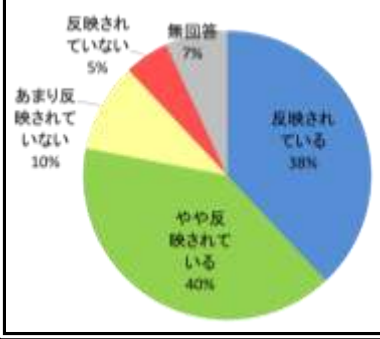
各拠点のデザイン検討案を説明

参加者と意見交換

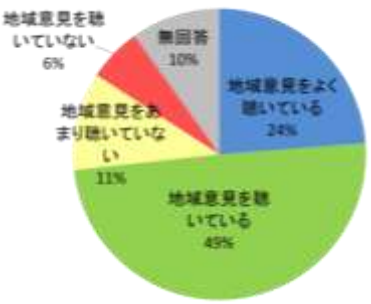
市民報告会アンケート結果（速報）

- 市民報告会に参加された方々（約170名）を対象にアンケート調査を実施し、約84名の方から回答。
- これまでの検討内容について、約8割の方々が、地域の方々の意見や想いが「反映」「やや反映」されていると評価。
- これまでの進め方について、約7割の方々が、地域意見を「よく聴いている」「聴いている」と評価。
- 今後、市民部会を開催して地域意見を伺い詳細設計を行う進め方について、約8割の方々が「期待」「やや期待」できると評価。

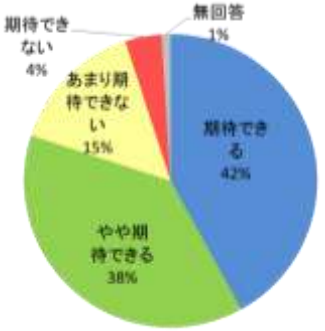
Q１．これまでの検討内容について、地域の意見を伺い設計を進めていますが、地域の方々の意見や想いが反映された整備（案）となっていますか？



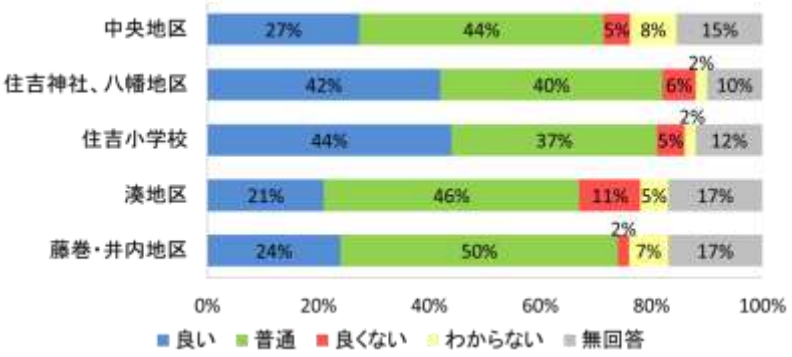
Q２．これまで地域の意見を伺うワークショップやパブリックコメントを実施してきましたが、進め方についてはどのように考えますか？



Q３．平成26年度は市民部会を設けて、地域の方々のご意見を伺い詳細な設計を進めていく予定ですが、今後の進め方について期待できるものとなっていますか？



Q４．各拠点の検討案についてどのように考えますか？



アンケート総数　84人

【お住まい】
- 石巻市　71人
- 仙台市　2人
- 多賀城市　2人
- 大崎市　1人
- 美里町　1人
- 涌谷町　1人
- 無回答　6人

【年代】
- 20代　6人
- 30代　9人
- 40代　13人
- 50代　16人
- 60代　21人
- 70代　14人
- 80代　1人
- 無回答　4人

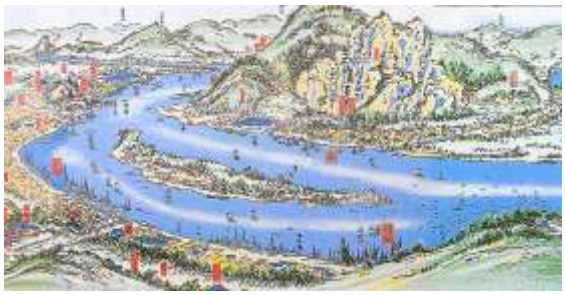
【性別】
- 男性　71人
- 女性　8人
- 無回答　5人

かわまちづくりの基本方針

旧北上川河口かわまちづくり　整備方針

【基本方針】

古くから川湊として発展してきた経緯、優れた石の生産地であること等の地域の歴史や文化等を踏まえた景観を形成する



仙台石巻港眺望之全図（部分）

【堤防や水辺のデザイン・設計の方針】

川湊の風景づくりの精神を受け継ぎ、まちの基盤となる原地形や原風景と調和した自然なデザイン（アースデザイン）として取り組む

【全体について】　原則１：堤防を地形の一部として捉える
原則２：構造物のサイズは常にできるだけ小さくなるように努力する
原則３：水辺環境・水辺利用に対する配慮を行う

【拠点部について】　原則１：まちの成り立ち、今後のまちづくりを踏まえる
原則２：利用形態を踏まえる
原則３：拠点にふさわしい質の高いデザイン

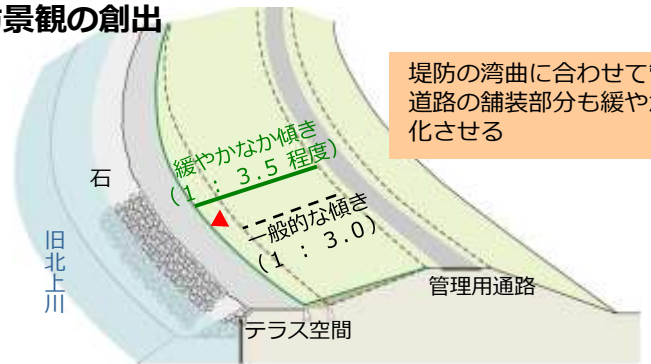
堤防整備の基本的な考え方

過去の地形や河道等に配慮しながら、雄大でおおらかな河岸を形成する

のびやかで変化のある堤防景観の創出

法尻（堤防の際）を前に出して緩やかに変化のある空間へ

堤防の湾曲に合わせて管理用道路の舗装部分も緩やかに変化させる



《堤防の模式図》

一般的な設計のライン
検討したライン

かわまちづくりの基本方針

旧北上川河口部における歴史や文化を尊重し、それらが想起できる空間を形成する

石積み護岸の保全・復元

従来の風景を保全・再生するため、構造上可能な箇所については、石積み護岸の保全・復元を行います。

住吉神社前の石積み

親水階段・かわど

水辺に下りるための場として、アクセス性や快適性等を考慮して、水際に広いスペースを有する箇所や坂路・階段等に近い場所に設置します。

かわど（藤巻･井内）

日常の散策や憩いの場として、ヒューマンスケールにあった居心地の良い空間づくりを行う

樹木（植栽）
坂路・階段の設置部や休憩箇所などに、植栽スペースを設ける

アクセス（坂路や階段）
水辺空間地の利用を考え、地域の意見をお聴きしながら、適切な間隔で設置

石を用いた水際部の整備
石を配置して、自然的な水際の創出

自然再生（植生）
テラス幅の広い箇所等を活用し、ヨシ原や人工干潟等を形成

拠点部は、全体のアクセントとして、また、まちとのつながり・利用形態を重視して、場所に即した丁寧な質の高い空間づくりを行う

中央地区のデザイン検討案

●● ワークショップやパブリックコメント等でいただい地域の方々の意見 ●●

利用方法などに対するご意見

○交流人口（訪れる人）が増えるような整備が望ましい
○堤防と背後のまち並みをフラットにして欲しい
○堤防から背後地への利用がしやすいようにして欲しい
○イベント等ができる空間にして欲しい
○川開き祭等のイベントの際の安全性に配慮して欲しい
○川から堤防の間は広い方が良い　　等

中央地区に欲しいもの

○花火観賞場所
○水辺に行きやすいアプローチ
○駐車場
○カヌー乗り場、スロープ
○震災啓発施設の設置　等

●● 意見等を踏まえた整備の考え方 ●●

川湊石巻の賑わいの拠点としてのまちづくり(堤内地側の整備)と一体となり、賑わいの場づくりを補完する、水辺ならではの魅力の場の整備

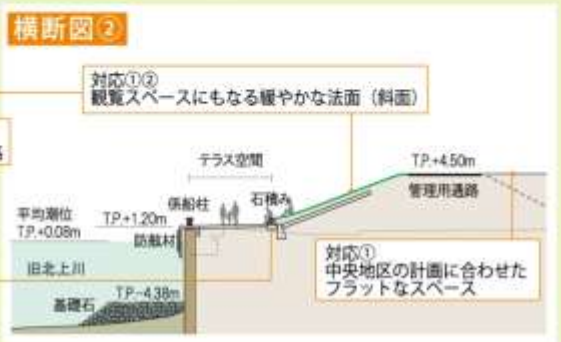
■川湊としての実用空間であることを踏まえ、過度な装飾は避けた機能的な空間づくりを基本にします。
■イベント時も含め多目的に使われる空間となる、居心地の良い空間づくりを目指します。

対応案（デザイン案）

対応①：まちづくりの拠点として、人々の集い・憩い・交流に配慮した空間を形成します。
対応②：川湊のイメージを形成するとともに、腰掛けて休憩できるように、法面の勾配を緩やかにしたり、法尻部を石積みにします。
対応③：まち側の整備に対応する形で、川側へとつなぐアクセス（階段や坂路）を設置します。
対応④：にぎわいと交流による人々の往来を考慮し、舗装等にも配慮し、質の高い空間を形成します。
対応⑤：小型船等の接岸にも対応する一段下がった、または、階段状のテラス空間を設けます。

中央地区のデザイン検討案

整備のイメージ



※上記は検討中のイメージで、実際の整備とは異なる場合がございます。

大島神社（住吉神社）前のデザイン検討案

●● ワークショップやパブリックコメント等でいただい地域の方々の意見 ●●

利用方法などに対するご意見

○石積み護岸など、昔ながらの風景を尊重した整備をして欲しい
○バリアフリーや高齢者等の安全性に配慮して欲しい
○水とふれあえる空間づくりへの配慮をして欲しい
○「かわど」や「袖の渡り」等の、地域の歴史文化を尊重した整備をして欲しい
○どんと祭り等のイベントができる空間にして欲しい
等

神社前に欲しいもの

○花火観賞場所
○船着き場
○駐車場
○ボート・カヌー乗り場
○住吉公園の整備
○水とふれあえる場所
○かわど　　等

●● 意見等を踏まえた整備の考え方 ●●

神社、雄島・太鼓橋等との関係を十分考慮した、川側に開けた神社・公園空間の創出

- 神社前にふさわしい格の高い丁寧な空間づくりを行います。
- 神社、雄島・太鼓橋等、各々の神社・公園施設の位置関係等に十分配慮します。
- 「袖の渡り」の対岸である八幡地区との「見る－見られる」関係にも配慮します。

対応案（デザイン案）

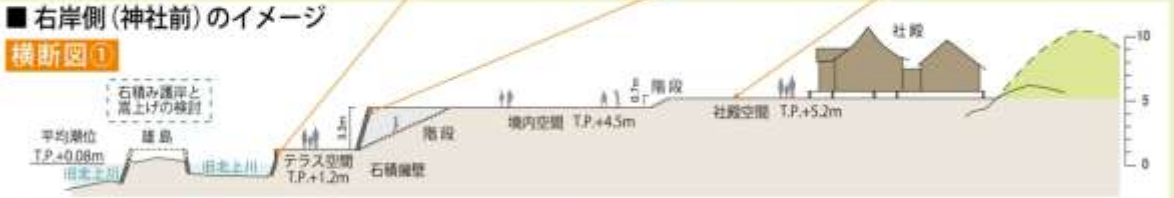
対応①：参道 - 鳥居 - 雄島を直線的に配置した空間レイアウトとします。
対応②：石積み護岸とすることで、ゆとりのある境内空間、テラス空間をつくります。
対応③：構造上可能な箇所では、既存の石積み護岸を活用することや、かわどを再現することで、昔を偲ばせる堤防空間づくりを行ないます。
対応④：「袖の渡り」の対岸となる八幡地区については、渡し場のイメージを演出するため、階段状のデッキ空間を設置し、カヌーや灯籠流し等の水面利用が行なえる場とします。

大島神社（住吉神社）前のデザイン検討案

●● 整備のイメージ ●●

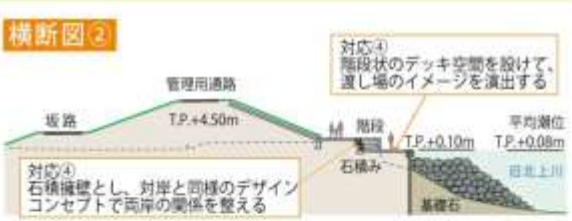
■右岸側（神社前）のイメージ

横断図①



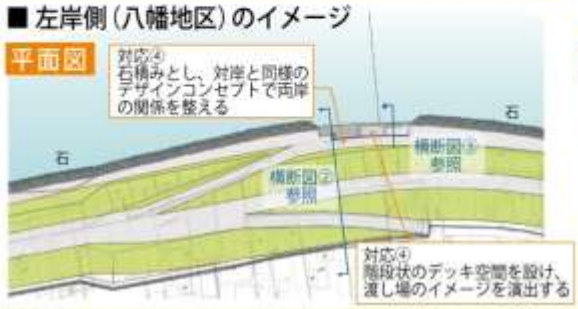
平面図

横断図②

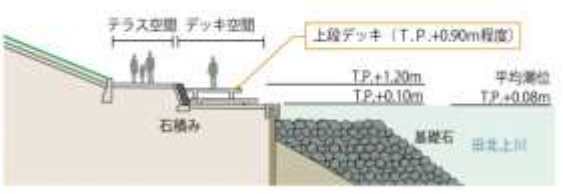


■左岸側（八幡地区）のイメージ

平面図



横断図③



※上記は検討中のイメージで、実際の整備とは異なる場合がございます。

住吉小学校前のデザイン検討案

ワークショップでいただいた住吉小学校の児童の方々の意見

水辺でしてみたいこと
- ○魚やザリガニ取りをしたい
- ○釣りをしたい
- ○虫取りをしたい
- ○花火をしたい、花火を見たい　等

水辺に欲しいもの
- ○遊び場がほしい
- ○生き物にふれられる場所
- ○休憩所がほしい
- ○花火を見る席が欲しい　等

堤防でしてみたいこと
- ○ソリ遊び、段ボールすべりがしたい
- ○サイクリングがしたい
- ○花や木を植えたい
- ○くつろぎたい　等

堤防に欲しいもの
- ○サイクリングロードがほしい
- ○花火を見る席が欲しい
- ○休憩所がほしい
- ○花壇が欲しい　等

意見等を踏まえた整備の考え方

**河道の変遷の姿を留める場として位置づけるとともに
子供たちが自然環境に触れ合え、学び・遊べる場**

- ■住吉小学校児童を対象としたワークショップでの意見を生かし、学びの場・遊びの場としての堤防空間を創出します。
- ■かつての堤防の名残を想起させるような堤防の形状とします。

対応案（デザイン案）

対応①：一部の区間に新たに干潟をつくり、水辺の原っぱ遊びなど多様な活動が行えるようにします。

対応②：堤防の斜面を緩くすることで、斜面でのソリ遊びや原っぱでの虫取りなど、自由な遊びが出来る空間づくりを行ないます。

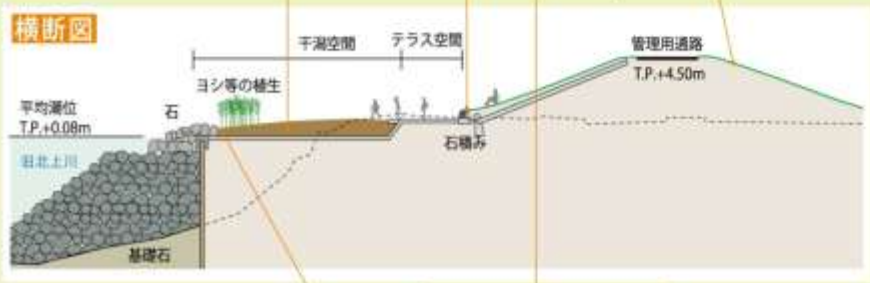
対応③：テラス部分には、小学生が集まって学習等ができるよう、まとまった広場スペースを確保します。

対応④：かつての堤防の形状に合わせて堤防が折れ曲がる部分を設け、河道の変遷を想い起させるような形状にします。

対応⑤：安全対策として、支川との合流部付近に水制工を設けるます。また、干潟空間の水際に石を積むなどして、川の深みに入らないようにします。

住吉小学校前のデザイン検討案

●● 整備のイメージ ●●



※上記は検討中のイメージで、実際の整備とは異なる場合がございます。

湊地区のデザイン検討案

●● ワークショップやパブリックコメント等でいただいた地域の方々の意見 ●●

利用方法などに対するご意見

○くつろげる空間にして欲しい
○四季折々に楽しめる、憩いの空間づくりをして欲しい
○休憩や花火の観覧が出来る場所にして欲しい
○川を見ながら散策できる空間にして欲しい
○ヨシ原の復活、魚やカニが集まる場所等、自然再生に配慮した整備をして欲しい　等

湊地区に欲しいもの

○花火観覧場所
○親水空間
○カヌー等がつけられる場所
○川へ降りる階段
○自然とふれあえるような場所
○堤防天端の並木　等

●● 意見等を踏まえた整備の考え方 ●●

都市内の身近なオアシスとしての整備

■生活空間や産業活動に隣接するエリアであることから、市民の散策や憩いの場を目指します。
■日和山や中瀬、河道の合流部を眺めたり、川開き祭等の観覧等ができる場とします。
■堤防上に並木をつくるなど、地域の新たな名所となるような整備を行います。

対応案（デザイン案）

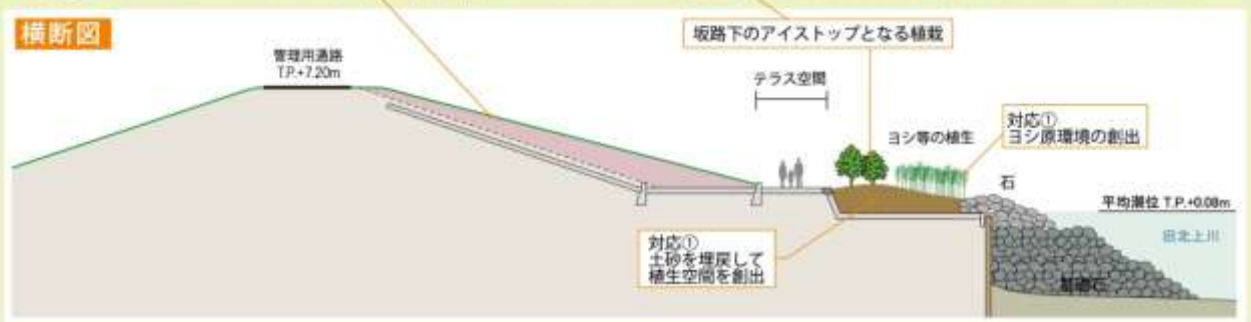
対応①：テラス幅を広く確保できる箇所では、ヨシ原等の自然に触れながら散策できるテラス空間をつくります。

対応②：日和山や中瀬を印象的に眺めることができる箇所には、展望スペース（親水スペース）を設置します。

対応③：堤防背後の並木づくりにより、憩いの場としてくつろげる空間づくりを行います（詳細は検討中）。

湊地区のデザイン検討案

●● 整備のイメージ ●●



※上記は検討中のイメージで、実際の整備とは異なる場合がございます。

藤巻・井内地区のデザイン検討案

ワークショップやパブリックコメント等でいただい地域の方々の意見

利用方法などに対するご意見

○石積み護岸の姿で、歴史性を感じさせる河川空間にして欲しい
○昔ながらの川の利用と、自然の流れでつくられてきた護岸の姿なので、現在の護岸の形を尊重した整備をして欲しい
○漕艇等のスタートの場　　等

藤巻・井内地区に欲しいもの

○ベンチ等
○サイクリングロード
○小型の船やカヌー等が接岸できる施設
○かわど
○川へ降りる階段　　等

意見等を踏まえた整備の考え方

現在の河畔、石積み護岸の風景を保全するとともに、稲井石の産地として石の雰囲気を活かした整備を行う

■ 現在の石積み護岸を可能な限り活かしていきます。また、他の可能な箇所についても新たな石積み護岸による整備を図ります。
■ 釣り等のスポットとしての利活用等も考慮します。

対応案（デザイン案）

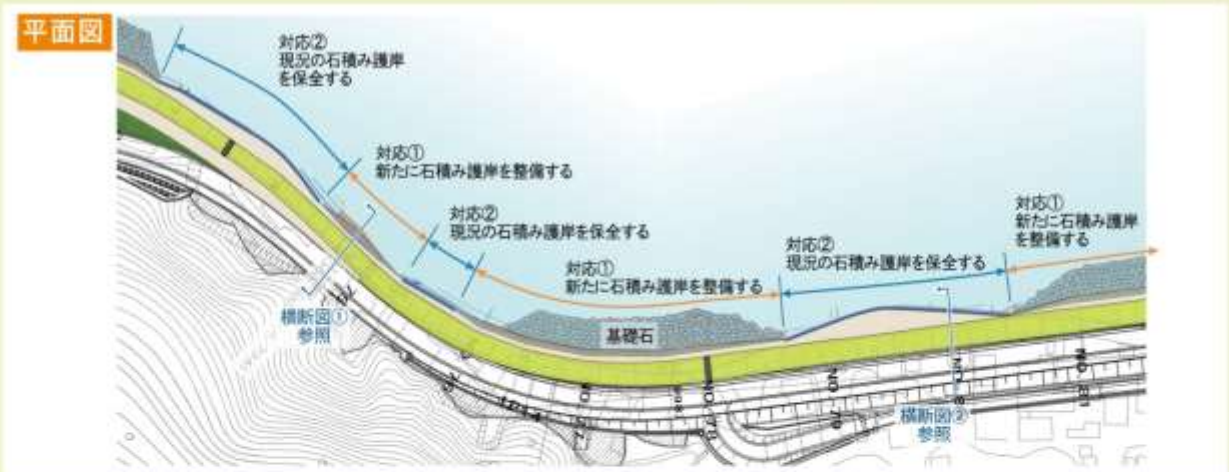
対応①：石積み護岸による整備を図ります。

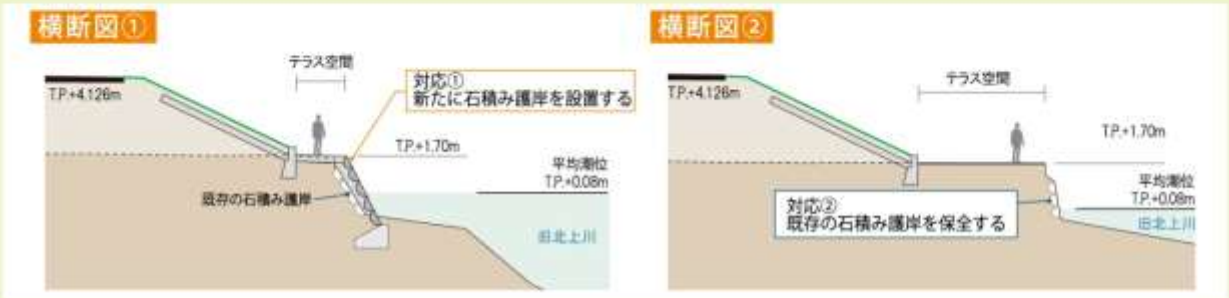
対応②：構造上可能な箇所については、現在の石積み護岸を活かした整備を図ります。

対応③：現存する“かわど”等を適宜復元し、釣り等が楽しめるようにするとともに、昔ながらの川の雰囲気を演出します。

藤巻・井内地区のデザイン検討案

整備のイメージ



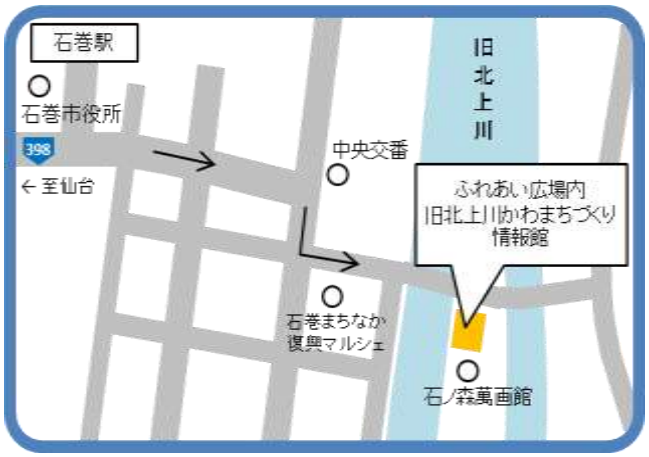


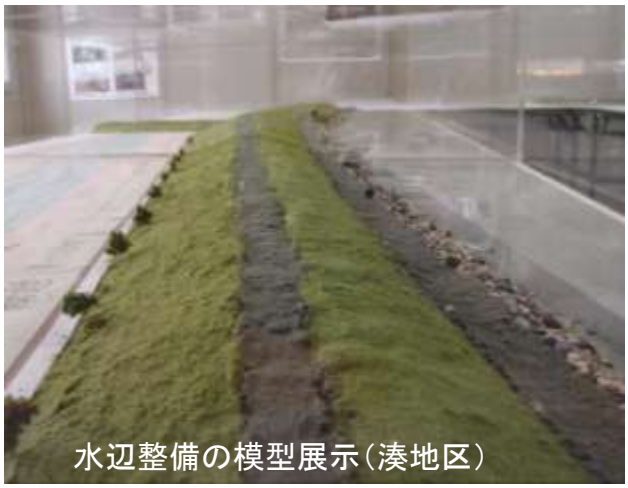
※上記は検討中のイメージで、実際の整備とは異なる場合がございます。

旧北上川かわまちづくり情報館

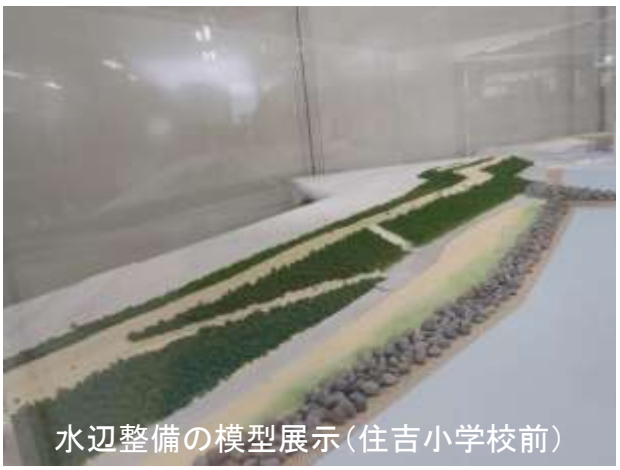
➢旧北上川河口部の新たな水辺整備の考え方やイメージを共有するため、平成26年7月4日に「旧北上川かわまちづくり情報館」を開館。

➢旧北上川河口のかわまちづくりに関するパネル、模型の展示を行い、水辺整備イメージを広く情報発信。




水辺整備の模型展示（湊地区）

説明パネル展示


水辺整備の模型展示（住吉小学校前）

かわまちづくり関連の資料提供

市民部会によるかわまちづくり

➢継続的に地域からの意見を聴取し整備に反映するため、「市民部会」を新たに位置付け、ワークショップ形式で水辺デザインを検討。

➢「検討会」「学識者ワーキング」「市民部会」の3つの検討の場を生かして地域に重点を置いた検討を推進。

市民
“意見交換・議論の場”
「市民部会」

事業者
（国、県、市）

専門家
技術的な助言
「検討会」
「ワーキング」

●検討会 【継続】
内容：景観に配慮する方法について指導、助言。
頻度：年1回程度

●ワーキング 【継続】
内容：検討会の付託による詳細な技術的検討、現地指導
頻度：年2回程度

●市民部会（仮称）【新設】
構成：地域の代表者＋公募
内容：ワーキングにより抽出された詳細な課題の検討
各地区の抱える問題課題を情報交換
頻度：各地区で年2回程度

旧北上川かわまちづくりの参考資料

《旧北上川かわまちづくり関連資料》

- ◆ 旧北上川河口かわまちづくり検討会
- ◆ 地域ワークショップ、パブリックコメント
- ◆ 市民報告会

http://www.thr.mlit.go.jp/karyuu/taiheiyouokijjisinn/kaigitounokaisai.html#kaigi_3

《石巻かわまちづくりニュース》

http://www.thr.mlit.go.jp/karyuu/taiheiyouokijjisinn/kawamati.html

《東日本大震災から3年間の取組》

http://www.thr.mlit.go.jp/karyuu/taiheiyouokijjisinn/140313_torikumi3.pdf

《いしのまき水辺の緑のプロムナード計画》

http://www.city.ishinomaki.lg.jp/cont/10507000/8290/20130605165626.html

《復興情報かわら版「コムコム」》

http://www.thr.mlit.go.jp/karyuu/info/comcom2.html

《MIZBERING（ミズベリング）》

http://mizbering.jp/

にぎわいある水辺を石巻に！

旧北上川かわまちづくり

MIZBERING ISHINOMAKI

がんばろう！東北

国土交通省 北上川下流河川事務所

〒986-0861　石巻市蛇田字新下沼80番地

TEL. 0225-95-0194（代）

http://www.thr.mlit.go.jp/karyuu/

石巻市（担当課　河川港湾室）

〒986-8501　石巻市穀町14番1

TEL. 0225-95-1111（代）

http://www.city.ishinomaki.lg.jp/